

平成 30 年度 長野県立歴史館協議会 議事録

1 日 時 平成 30 年 10 月 25 日（木）13 時 30 分から 16 時 00 分まで

2 場 所 長野県立歴史館 会議室

3 出席者

○委員（五十音順）久留島浩委員、小林正春委員、小松芳郎会長、下村征子委員、高澤政江委員、中條智子委員、中村孝子委員、山口敏男委員、山崎まゆみ委員、（欠席早見千津子委員）

○県立歴史館 笹本館長、伊藤副館長、福島学芸部長、大竹総合情報課長、西山考古資料課長、小野文献史料課長、寺内専門主事、町田専門主事、伊藤専門主事

○県教育委員会 文化財・生涯学習課 井上課長 櫻井主事

4 会議に付した事項

（1）平成 29 年度事業実施状況等について

（2）平成 30 年度事業について

（3）その他

5 歴史館協議会

（1）開会（事務局）

それではただ今から、平成 30 年度長野県立歴史館協議会を開催いたします。

会議に先立ちまして、笹本館長からご挨拶を申し上げます。

（2）歴史館館長あいさつ（笹本館長）

委員の皆様には本日は、お忙しい中、お集りいただきまして誠にありがとうございます。幸いなことに今日は天気も良く、会議をするにはここでやるより外の方が良いくらいです。皆様のご指導もありまして、歴史館そのものが変わってまいりました。このところ、県民の多くの方がお見えになり、また昨日は、私どもが資料保存の関係で協議会を開きまして、多くの方に集まっていただきました。私どもとしては、県民にとって少しでもプラスになるようにと考えながら、日々働いています。例えば、明日は山梨県立博物館と本県の博物館としては初めての連携協定を結びます。

今後、一步一步前に進めるためにも、本日は皆様方にご指導をいただきたいと思っています。できましたら、些細なことでも、こうやるともっと大きく歴史館が飛躍し、もっとよくなるということをお話しただけで幸いです。また、幸いなことに文化財・生涯学習課の井上課長が本日お見えになっています。いままで、県側が顔を出してくれませんでしたでしたが、私の後ろには井上課長がおりますので、大きな声で言っていただければと思います。

なお、今やっている黒曜石展は、長野県と山梨県にまたがるもので、日本遺産にかかわります。最古のブランドとして、黒曜石を語った内容です。図録が手元にない方は、すでにご来館の折にお渡しした方になります。ご了承ください。

本日はいろいろとこれから協議をしていただきますが、是非よろしくお願ひします。

(3) 県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課長あいさつ（井上課長）

皆様こんにちは。文化財・生涯学習課長の井上です。本日はお忙しい中、この歴史館協議会にお集り頂き、誠にありがとうございます。皆様方におかれましては、日頃から県の文化財行政、並びに県立歴史館に対しまして、ご理解・ご協力いただきまして御礼申し上げます。それから、一つはお詫びを申し上げたいと思います。昨年は、この会に参加できなかったということで、これからは、出席したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

最近の話を申し上げますと、国では、6月に文化保護法が一部改正されたりしております、文化財の保存と活用につきまして話が来ています。国のレベルで、「文化財」、「文化庁」という名前が出てこなかったところ、2年前の「日本を支える観光ビジョン」があり、その中にも「文化財」という言葉が出てきています。少々インバウンドに特化しているようにもみえますが、文化財というものに対しまして、注目が集まって来ているところです。

また、県としましても、今年から5か年計画で「しあわせ信州創造プラン」がはじまります。この計画では、学びと自治がキーワードになっています。そういう意味でも、県立歴史館は地域の文化と歴史を知るということで、これから益々その役割が重要になってくると思います。

笹本館長に28年度から就任していただき、まあ、身内というのかもしれませんが、発信力もある館長として、歴史資料の保存、収集、活用、そういったところから、どうしても歴史館が北側に位置していることから、お出かけ歴史館ということで、南方面の小中学校等へ出向き活躍していただいている。あるいは、砂防課といっしょに防災に関する取り組みもして頂いている。来年度は、歴史館が25周年を迎えるということでもあり、今日は皆様方からいろいろなご意見、ご助言をいただきながら、これからも歴史館といっしょになって歩んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(4) 職員紹介（事務局）

本日会議に出席している当館職員を紹介させていただきます。（以下職員を紹介）

また、本日は、文化財・生涯学習課より櫻井主事及び当館職員が出席しています。

(5) 会議成立報告（事務局）

ここで会議の成立について報告いたします。お手元の委員名簿のとおり、委員総数は10名であります。本日は9名の委員の方にご参加いただいておりますので、長野県立歴史館管理規則第4条第3項の規定により会議が成立していることをご報告いたします。

（配布資料説明）

これから会議に入りますが、規定により会長が議長を務めるとされておりますので、小松会長に進行をお願いいたします。

(6) 小松会長

それでは小松ですけれども、会議次第に従って会議を進めたいと思います。会議次第にしたがって進めたいと思います。はじめに議事の1を議題とします。「新たな歴史館の創造をめざして長野県立歴史館の使命と目標」（平成29年度評価表）について事務局から説明をお願いします。

6 議事（協議事項）

（1）平成 29 年度事業実施状況について

○事務局

（配付資料「新たな歴史館の創造をめざして 長野県立歴史館の使命と目標」説明）

○小松会長

ありがとうございました。大変多岐にわたっていますが、平成 29 年度の評価表について、ご質問、ご意見を伺っていきたいと思います。

○下村委員

私は歴史が大好きで、信毎コラム等を見せていただいています。職員さんが頑張っていると思いますが、保存処理がD評価ですね。お金がないということで、あとどれほどあれば思うように出来たのでしょうか。東御市でも教育面で予算が削れています。県も税収が削れて大変だと思いますが、課長さんもいらっしゃるから是非お聞きしたいと思います。

○事務局

この事業は 29 年度から始まりました。実は 20 年でポジフィルムが劣化している状況にあり、事業を始めたところです。

当初の見積もりでは 1 枚 450 円だったのですが、それはレベルの低い保存であり、必要レベルのものは 1 枚 1,400 円かかるとわかったのです。今、7、8 年でデジタル化を考え、200 万円以上の予算をいただいています。その倍以上必要とわかりました。ほかの保存処理も含めると当初計画どおり事業を達成することが難しい状況にあります。今の予算で見積もると、おそらく 10 年以上を要するといえます。

また、ただ単に予算が付けば済むものでもなく、職員も必要になる。これが、歴史館の考古資料の実状です。

○小林委員

考古資料の現状について、おおよそのところはわかりました。まず、年度当初の目標値設定が基本でしょう。要は目標値の設定に問題があったということ。やはり、目標値の設定はいい加減であってはいけません。おおよそこんな位でいいという目標値設定をすることが事態が問題です。ですから、キツイことを言って申し訳ありませんが、館の責任としてはやはり資料の収集・保存をするプロフェッショナルな集団だから、どのくらいのものにどのくらいの経費が必要か、どの位の年次計画を立てればよいか。長期にわたる基本計画をきちんと設定する中で、それに見合った予算をきちっと付ける。現状では、目標値と達成値のずれが解消しない。課長さんもおられますから、是非積極的な予算配分をお願いしたいと思います。

最初のところは、あえてB評価にする必要がないでしょう。Aで良いと思いますよ。特に、真ん中のB評価が目立つ形になっています。この目立つ形をなくす方向が必要で、全体でご努力いただきたい。あとは、館の皆さん非常によくやっておられると思います。真ん中のD評価は目立つ形になっていますが、それを修正していく方向を館全体として是非打ち出すご努力をお願いしたいと思います。

○小松会長

今、協議会としての評価をいただいているところですが、ほかいかがですか。

○久留島委員

私は人数がどうかということはたしかにあります。が、この場所に在っては非常によくやっているとと思います。出前に持って行くことを含めると、博物館としての役割は十分に果たしていると思います。やはり、以前から気になっていることは、行政文書をここでやるべきかということ。未整理の行政文書がまだある。古文書もまだあると聞いている。ここではやはり歴史的な文書ではないかと思えます。歴史館の第一の仕事は歴史的な文書の保存ではない。やはり、公文書館を造ることが必要ではないか。長期的に考えていくべきかと。長野県として歴史・文化を守っていくには、まずいのでないか。千葉県にも公文書がある。このことで公文書を破棄したりして問題が生じたが、やはり公文書館が在ることでまったく違う状況になると思います。事業を分けることで可能になることもあるのではないのでしょうか。

○小松会長

先ほど、部長さんからお話しもありましたが、未整理行政文書の問題もある。限られた予算と人員の問題もある。考古資料の問題とも関連してくる話になります。歴史館の中で、歴史史料として重要なものの整理も重なっている。県として、公文書館機能を充実させた施設を考えても良いのではないのでしょうか。そういった意見もありました。が、歴史館ですから、あれもこれにも特化した方向も、ご意見だと思えます。

○井上課長

非常に貴重なご意見をありがとうございます。今の公文書の関係で行きますと、行政文書は担当課が不用決定した公文書について、その中から歴史的価値のあるものをこちらに引き継ぐ流れになっています。その全体は総務部の方で、いわゆる公文書管理をやっているわけです。それについて、いま見直しを始めたところです。その中で、公文書館的機能の問題も入ってきますので、そこで議論していきたいと思えます。システムとしてどうしていくかということもありますので、そこで歴史館の役割、業務というものを考えていきたいと思えます。

○小松会長

いまの行政文書、未整理文書というものは、目標の立て方とも関係してくると思えます。はじめから人員も予算も少ない限られたところでやる。考古資料のところも含めて限られたところを認めた上で、予算と人員で行うということ。いつまでも理想、理想ではいけない訳です。どうしてもこの仕事は予算と人の問題がありますから。

○笹本館長

今、私どものところでは、常勤職員が1人で10万点の行政文書を扱っています。実はそれだけではなくて、信濃史料等修史資料も扱っていますので、0.5人が常勤職員ということで運営しています。よその県の例で言いますと、例えば神奈川県では文書を選別するのは公文書館専門職員、行政職員が出向き行っている。うちの場合は、当館職員が廃棄処分の文書から歴史文書類を選別し持ってきている。考古資料のフィルムの問題もありますが、古文書にも大量のフィルムがあります。が、それはほとんど前に進んでいません。理想論と、私どもにいただいた予算とで業務を遂行しているところですが、一方では本来こうあるべきだということを協議会の皆さんの方から言っていたかかないと前に行かないのです。

大量のフィルム、行政文書書庫には大量の地図がある。特に近代となつてからケント紙等を使用しているために、開封したらバラバラになる状況がある。デジタル化を前提としたときでしか開けられない。その予算等まったくない状況です。このまま進みますと劣化に劣化を重ね

ることになります。できましたら、本協議会の方から本来こういうことをしなければいけないよということを、少しお考えいただき、私どもが県と協議するとき、皆様方から協議会の方からこういうことをいわれていますので、お考えいただけませんか。とっていただければと思います。一応、実状を述べさせていただきました。

○小松会長

そういう現状と更にこういう点はということが委員の皆さんにはあると思いますが。いかがですか。

○下村委員

開けたらバラバラになってしまうのはどのくらい大量にあるのですか。

○笹本館長

棚にして、この部屋の半分くらいですか。というのは、例えば県内の橋を架けるといいう時に、測量図面を作成している。長野県はその時の図面が非常に良く残っている。よそでは考えられないくらいよく残っている。ただ、それを開けようとするとき酸性紙のためにバラバラになってしまう。だから、開けるためにはその用意が必要になる。同時にそれは、当館内ではできない作業になる。そうなってくると実は莫大な予算が必要になる。このため、一切手つかずの状況にある。

もう一点は、本県として大事な遺産として明治時代の地図、皇国地誌を作った時の地図が存在する。これはおそらく日本でも大量に持っているところだと思います。県の砂防課と連動いたしまして、災害用の地図として利用できないか。予算の関係で年に二点くらいしか進まない。ただ、はじめたのはおそらく日本では最初だと思います。

ちなみに、いま明治時代のものは、長野県宝という形で県の最も重要な文化財として指定されている訳ですが、過日、東大の方々が来館された折に、これはよその状況からすると、充分重文になるのではないですかとご指摘いただいている。県の方には重要文化財指定に向けた要望をしています。

○小林委員

私ども協議会で、その中身のことをいっていいのかどうか。個人的には疑問があります。というのは、この歴史館には資料委員会と史料調査委員会があります。その方々がきちっとした整理をした上で、歴史館提言するなり、当協議会に出すなりすべきではないでしょうか。それを議論することが本来の筋で、私ども協議会にその課題までは中々難しいのではないのでしょうか。中身について議論する会議ではないと思います。

○笹本館長

わかりました。その点につきましては、委員会・調査会等在り方の問題としてきちんと整理した上で進めたいと思います。

○久留島委員

先ほどの皇国地誌の話で、災害、防災と連動させるということは、非常に重要なこと。私どもも20年前に水害があった。防災に使える。その点、非常に重要であると思います。やはり、そういうところを含め行政文書の整理は早く進めた方がよろしいだろうと思います。

○小松会長

防災・災害への対応の項目があります。松田館の対応にしても歴史館が中心になり、県内の担当者に呼びかけ、大勢の体制が組め、レスキューに参加していただいている。非常に大きなことでした。もちろん評価はAになっていますが、県内外の報告を行っただけではなく、関係機関に呼びかけて、県の文化財・生涯学習課の方で、県民あるいは自治体のそういう人達が実際に活動される。その報告を行っただけでも貴重で重要なことでした。いつ災害が起こっても不思議ではないわけですから、今後の事も含めて、大きな事であったと思います。

そうしましたら、最初のところで、企画展の資料調査、歴史館の自己評価はBですが、いかがですか。我々の協議会ではA評価が良いのではないかと思うのですが。それから、考古資料の方は、協議会では実情を理解したところでD評価で、その他でどうでしょうか。ありましたら、この後にでもお願いします。

○小松会長

それでは、次の基本目標「未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします」に移ります。いかがでしょうか。

○久留島委員

歴史館版の信州学を実際に出されていて、実際に1冊刊行で1冊刊行したのに評価が低いのか。予定通りではないですか。一応達成されている。ブックレットの刊行がB評価になっている。確かに人数が減っているが。一応達成しているなら、一冊を出すことはA評価でよいのではないですか。

○笹本館長

私どもの「評価の区分」で、Aというのは「目標を上回る成果をあげた」、Bは予定のとおり「ほぼ目標は達成した」、Cは目標には及ばない、Dは「目標には遠く及ばなかった」としていますので、刊行しただけだと目標に従った、そのままだということで、達成したとなる。Aは、皆さんに認めていただいて評価されるというのが内部評価です。

○久留島委員

私どもでしたら、この場合、達成したのだからA評価でよい。そうでなければやっていけないと思うのですが。

○小松会長

館の説明はそういうことですが、いかがですか。

○小林委員

自己評価のBは、ほぼ目標が達成できたということは、おおむね90%台。100%になればAで行こうという。そうすると、最後のところのB評価はAにかえてもよろしいのではないのでしょうか。110%でなくとも、100%あればA評価でよろしい。親子歴史ふれあいコーナーはA評価でよいのではないですか。

○小松会長

そういうご意見がありますが皆さんいかがですか。

利用者のところ要望が多いようですが、常設展の体験を増やして欲しいとか。そのほか場所

でしょうか。親子歴史ふれあいコーナーは、BではなくAかと思いますが。ブレットの刊行も同じく館の説明がありましたが、協議会とすればAというご意見がありますが、よろしいですか。古文書講座のところはB評価ということでよろしいでしょうか。

○久留島委員

公民館でうまくいかなかったということ。どういう原因だったと判断されているのですか。なぜ、公民館で実施できなかったのですか。

○事務局

とにかく当館は学校中心でやって来たところですよ。実際に土器を持ってもらったり、勾玉を作るとか、体験を踏まえるもの。ですので、公民館というところでは実際に開いているときとか、日程等々ですね、うまくいかなかった訳です。ただ、学校だけでなく地域の公民館も対象にしたが、実施に至らなかったということです。

○久留島委員

なぜ、お聞きしたかということ、これは新規事業として重要とあるからです。お出かけ歴史館ということ、博物館というと高齢者の方と接するところでもある。しかも、その上に出前活動をするということで大変かと思えます。いまの職員数でよくやっているといえます。ただ、希望が無く実施に至らなかったではなく、何か足りなかったということ。それを書いていかなければならないと思います。そうしないと、次に繋がらないと思います。やはり、やることに意義があると思いますが、しかし事業展開とすればかなり広げすぎているのではないかと思うのです。本当に、館の職員としてやらなければいけないことが、資料整理をやった上でと思います。やはり学校の出前講座は実に大変なことです。そして講座も持っている。その中で、公民館活動もこれからやろうということ。この職員数では限界があるのではと思いますが。事業展開すればかなり広げ過ぎているのではないかと思います。

○小松会長

お出かけ歴史館事業、その生涯学習の公民館の方はD評価。学校の方がA評価ですが。

○事務局

一応今年度やり方を工夫しないといけないと思います。学校の場合ですと生徒が居て、そこへ我々が出向くことになる。しかし、公民館で実施することは、聴講者を集めることが必要になる。このような事業は、続けて効果が出てくると思う。はじまるまでの期間にパネル展示をするとか工夫をしなければと考えています。次には考えて動こうと思います。初めてのこともありますが。公民館の方でもどうということをするのか、掘めていなかったところもあると思います。今年はそういう形で、今のところ1件は来ている。少し頑張って続けないと効果が出ないといえます。もう少し我慢強くやらなければいけないところでしょうか。

○小松会長

いま、やり方の工夫として話がありましたが。いかがですか。

○小林委員

先ほど、課長さんの方で学びと自治が柱になるというお話がありました。その学びと自治の柱では、やはり公民館活動が大きな柱であろうと思います。そういう文化財・生涯学習課の事

業計画の中で、歴史館の事業計画の中で、タイアップした形で事業計画ができればよいですが、新しい事業でもあり、進めてもらいたいですね。

○小松会長

そのほかはいかがですか。

○山口委員

歴史館さんは展示解説とかに力を入れられ、バックヤードの見学とか非常に各方面から来られています。歴史館さんと私ども古墳館とセットで来られることが多い現状があります。これは29年度の実績ですが、30年度の歴史館さんは8月から9月にかけて建物の修繕工事ということで閉館に時期があったわけですが。その時期、実は古墳館では、ガクンと少なくなってしまうのです。あらためて、歴史館さんの集客力による影響が大きいということ。おそらく古墳館単独ではここまでの見学はないものと感じています。非常に解説等工夫されているところですが、私どもも学校見学では解説を入れています。今後も歴史館さんに負けないように工夫をしていきたいと思います。余談ですが、29年度の時には、学校の一日の日程の中で、歴史館さんを先に見学した後の古墳館のコースで、なかなかこちらに見えられないと、時間が遅れる傾向が度々ありました。おそらくは、担当者さんが解説に熱が入ったのかと思っていましたが、今年度はそのようなことがなく予定通り進めていただいています。

○小松会長

ほか、提案等どうでしょうか。

○下村委員

提案というかお願いというか。時々でも支援いただいて本当にありがたいことです。特にすごいなと思うのは、山の中の小さな学校があって、公民館でも遠いと思う人もいて、行けない。子供との親子ふれあい歴史コーナーの設置ということでどうでしょうか。以前、黒曜石を鹿の角で割り切る光景に子ども達は非常によころんだ様子だったことを思い出しました。その黒曜石の破片で、何枚もの新聞紙が切られて驚いていました。そのような体験を子供と大人セットでできないか。公民館へお出かけ講座を開けば良いのではないのでしょうか。これは、集まってくるのではないのでしょうか。それに、未来に育つ子どもたちの刺激になるのではないのでしょうか。

○中村委員

ここからだ、東小学校のところか。公民館では公民館の事業があるのではないか。公民館主催の研修旅行で北信地方を訪れる企画があれば、そのアプローチが必要ではないか。この館だけではなく、地域へ足を向けてもらう公民館事業に組み込んでもらう。こちらから出かけることは結構大変だと思うので、来ていただく方策も必要ではないのでしょうか。親と子がいっしょに参加できる体験がもう少しあれば。敷居がもっと低ければ、やりやすいのではないのでしょうか。気軽に対応していただけることがありがたいと、学校側としては思うところです。

あと、学校の利用としては、ワークショップなどすごく盛んでまた詳しく、色々なパターンがあります。学びに来るということを考えると6年生の歴史学習だけでなく、長野県庁へ見学に行く4年生とか、あるいは長野の善光寺の見学に来られる機会にも、歴史館にリンクさせる。そうした広報活動があると思うのです。そこで、限定の縄文食弁当とセットで関係付けるとか、を考えることも必要ではないのでしょうか。

○小松会長

それでは、いまのここでの評価は、お出かけ歴史館としても進めていただければと思います。次のところでいかがですか。自己評価のところは。

○久留島委員

アンケートの仕方なんですけど、この方法は統計しづらい。やってみると非常に複雑で。その時々、面接的なアンケートも混ぜてやるともう少し具体性がでてくるのではないのでしょうかと思います。するともう少しわかるのではないのでしょうか。ここでは、パーセンテージが上がっているという解釈ですが。アンケートの収集後のあり方。その反映の仕方等。もう少し来館者の生の声を吸い上げることも必要かと思います。このアンケートで取られたことは次にどういう形で反映されるのか。それをどこかに入れてもよろしいのではないのでしょうか。それはすなわち次につながっていくのではないのでしょうか。次の目標も出てくるでしょうから。アンケートの整理の仕方等、分析を課題として明確にすることが良いのでは。解決すれば次は必要なくなるものもある。

○小松会長

その他、それぞれの歴史館の事業についてはよろしいでしょうか。

(2) 平成 30 年度事業について

○事務局

(配布資料「平成 30 (2018) 年度県立歴史館の活動計画 (目標)」の説明)

○小松会長

県民が歴史を振り返る。学びとしての場に歴史館があるということで、近年多岐にわたる事業が増えてきました。開かれた館として、県民にも周知されてきた。全体にわたりこういうこととか質問あるいは提言がありましたらお願いします。

○中村委員

関係機関との連携ということで、信大繊維学部とのことがありますけど、どんな内容になるのか。学校で子どもたちを連れてきて、見学するときに、古代のコーナーで土器等興味がありますが、近現代になってきたときに、説明が最後で駆け足のようにになってしまう。県内の養蚕とか非常に重要だと思うし、後々に歴史館へ見学に来たときの印象に残りづらい。子どもたちが蚕をどれくらい興味があるか、その感覚がない。長野県は、製糸業が盛んになったところを、もう少し充実したりすればと思います。繭の糸を手繰ってみる体験など、ちょっとした工夫でいろいろと印象に残ってくれるようなものがあればと思います。

親子で歴史を学ぶ。見学で満足するだけではなく、お宝探しのワクワクするもの。子供としては、たたいたり騒いだりする。ワクワクできるような触れる音が出るものがあると楽しく、また来たくなる。この歴史館はとてもきれいで、逆に近づきにくい様な、音を立てるとはばかれる様なところがある。やはり、来たくなるような楽しさ、ワクワクできるようなものが欲しい。親子を対象にするならば、触れるもの音が出るものがやはり必要ではないでしょうか。

○笹本館長

信大に繊維学部がある。当館の常設展示室の近現代コーナーに養蚕がある。信大は日本で唯一繊維学部がのこっているので連携を組んでいきたい。結果はどう付いてくるかわかりませんが、少なくとも私どもだけでは足りない部分を補って頂きたいと思っています。

次に、親子のコーナーですが、私は子供達に遊んで欲しい。近代のコーナーは狭く、非常に弱い部分があるので、何とかしましょうというところから出発しました。が、実際に事を進める段になるとできない。それから、人権センターのところ、あそこは本来歴史館の場所でしたから何とかならないかと打診したら、動かせないとの回答だった。このため、今年急ぎ歴史館東外側に新しい建物を建て、歴史館の親子館とする要望を出そうと思っています。そこでやるのは、子どもたちが遊ぶのを前提としたものであって、私どもは今この建物は70年使用するよう県から指示が来ている。来年が25周年で、今まで一度も大改修していません。おそらく35年にはきちんとしなければいけないと思います。このきちんとする間に連動して何をやるかということは不可能です。今は要望段階ですが、子供のための館を外側に設けて、最終形態は地元の親御さん達と協力していきたい。金沢市の21世紀美術館がなんで来館者が多いのか。そのようなことも関係してくる。今までのような、こちらが主体的となるのではなくて、小さい時に楽しんで、その後に来るようなことを考えている。いままでは、館内で処理しようとして試行錯誤してきましたが、今年はここで大きく舵をきろうかと思っています。私たちはこれからも理想を持って、ながいスパンで物事を考えていきたい。それが大事かと思っています。歴博さんだって子供コーナーがありながら、うちの館にはないのは少々まずいだろうと思います。

○中條委員

今、館長さんからお聞きしたことは前からもあったわけですが、なかなか予算ということで実現に至らなかったということ。是非この協議会で、公民館に出前していただくより、親子で体験できる施設、別館を是非造っていただきたい。歴史館にとっても大きなメリットがあると思います。井上課長さんもおられますので、そのところ是非よろしく願いいたします。

○小松会長

今の笹本館長さんのお話し、今の中條委員さんのお話しもあり、この協議会としても実現に向けお願いしていきたいと思っています。

○下村委員

私も大賛成です。是非、そういう手で触って、子どもたちには五感で感じる体験が必要です。それに付け加えて、私は農家で養蚕農家でした。今、蚕を飼い生活する家は一軒もないですね。かつては非常に多かったです。私は繭を売ったお金で学校を出してもらったそういう記憶があります。是非そこらへんも充実させてください。子どもが、これは昔の産業でこうだったんだということが分かるようなコーナーができればいいなと思います。

○小松会長

教える館だけでなく、楽しめる館を目指してはどうですか。ほかには何かありますか。

○山崎委員

私も先ほどの館長のお話しをうかがって、遊べるスペースを造るということは大賛成です。私はいま歴史館の解説ボランティアをされていて分かるのですが、最初の頃に比べてだんだ

ん触れるものが減ってきた。それは、施設が老朽化したり物が傷んだりしてだんだん少なくなって来たんじゃないかと思います。先日、年少と年長の子ども連れのお父さんをご案内しました。年少さんはとにかく触りたがる。やはり子どもは実際に触って体験することで歴史に興味を持てると思いますので、体験が必要だと思います。ですので、先ほどの館長さんの案はとても賛成なところではあります。是非、井上課長さんへお願いしたいと思います。そういう方向にもっていただければありがたいことです。

○小松会長

その他、この協議会でも要望したいことがありましたらどうぞ。そのほか活動でも。この協議会としても今の方向で要望するということがよろしいでしょうか。そのほか、30年度の活動でいかがですか。

○小林委員

最後に、歴史館でのイベント。古墳館でのイベント。連携のことは結構ですが、県下各地の施設や地域、市町村あたりで、縄文まつり、黒曜石まつり、古墳のまつりなどなど行われていると思います。そういうところへは子どもたちは必ず参加しています。そういうところに歴史館が何ができるのか。歴史館として連動していただき、カレンダーなど配布するとか。何年かのサイクルで連携すればよい。わざわざ歴史館が何かのイベントを企画するよりは、何らかの協力関係を済むのではないかと思います。こちらのほうが、効果は上がると思います。

もう一点ですが。常設展示室、古くなればどうしようもないところはどこにもあると思います。常設展示室でよいかはわかりませんが、歴史館には他館との連携がある。例えば岡谷蚕糸博物館に行けばこういうことができるとか。そのような情報を歴史館側から発信する。どこも入館者が少なくきゅうきゅうとしている状況が見受けられる。歴史館の紹介で訪れるかたもおられるようになると思う。その道筋をつくることも歴史館の役割としては是非検討していただきたい。さらに、展示に関して、バーチャルリアリティーは子どもが喜ぶ。是非その導入を検討してください。

○小松会長

今のことにに関して何か要望等ありますか。

○久留島委員

やはり、常設展示室を見て欲しい。何回でも来て欲しい。常設展示室でこそ地域の人たちに何回でも来ていただいて楽しんでもらえる。それは理想なんですね。私どもも30年位経過し、3年間くらいでリニューアルするも、ひとつはミニ展示が常設展示のどこかに組み込まれている。それがひとつの活用の在り方でもある。たとえば養蚕という一つのテーマでやってみるとか。「県歌50年」は結構おもしろいところかと思っています。「信州の野球史」もありですね。いつ来てもおもしろい、を発信してもよいのではないですか。

○高澤委員

企画展の開催についてですが、29年度のどの企画展にも出させていただき非常に良かった。とても担当の方が力を入れていただいて楽しかったと思います。ただ、観覧された人数がまちまちで、受入れやすい企画展と、そうではない企画展があったのではないかと。工夫されて見てはいかがか。私たちは「特別」とか「ここでしか見られない」というフレーズに少し引かれる。そのあたり工夫されてみたらいかがでしょうか。

○笹本館長

ご意見ありがとうございます。実は私どもの博物館展示費用は、山梨県の半額、真田宝物館の半分以下。企画展展示の予算ではよその四分の一です。展示面積も 300 ㎡ですから。お金を払う側からすると 300 ㎡では、これだけしか無いのにお金払うのかということもある。ですから、私どもは地域の歴史に特化して、できるようなものを出来る限り考えてきています。その意味では、もともと冬季展はありませんでしたが、私がここへ来てから始めました。冬期間、人が来なければ休館ではなく、無理をしてでも開けましょうと。本来やるべきことはなんなのかとのご指摘もありましたが。私ども地域史研究をしっかりとやり、見直されてきた。それでも、お客さんに来てもらうことが大切です。

今回、成功したのは「君は河童を見たか」で随分と来ていただきました。これから先の事も、大体一年前には決まりますが、地域で活用してもらえような題材を得て企画して行きたいので、よろしく願いいたします。

○小松会長

その他、いかがですか。

○山崎委員

お出かけ歴史館のことですが、中南信だけでなく北信も是非実施して欲しい。というのは、比較的この近辺の方は来られているが、たとえば長野市内の方は一度もこられたことがない方も多くおられる。こちら、シニア大学の方が見学に来られていますが、公民館も年度当初の事業計画が決められてしまいます。なかなか後から追加は難しい。単発的にでも、アプローチして欲しい。

○笹本館長

実は、逆に言いますとこれ以上はアップアップなところがあります。というのは、私どもはここにあって、ほとんど中南信の方々に来て頂いていない現状です。来館者は東北信の方が多い。県立である以上は、平等としなければいけないと思います。やはり、交通費がかかる。バス代が払えない。遠いから時間が掛かる等々の限界がある。木曾展をやったとき、木曾方面から来ていただいた経験があるので、ある程度の場所を決めた企画も大切かと思いますが、やはり木曾谷、伊那谷以外にも手を出していくと、準備が大変になる。企画は、総合情報課職員で行っており、職員増を要望したが付けてもらえなかった。私としてはこれ以上拡大できない部分がある。

今日、協議会の委員の皆様からも非常にやり過ぎではないかといわれた。本来、やらなければいけないのは資料の保存である。その上に、調査研究があり、展示がある。あえて申し上げると、お出かけ歴史館は、県民に対する方策として、場所を決めてきた。今後の展開は検討したい。当館を県内にアピールするためには、ある程度の場所の設定が必要と考えています。

○小松会長

その他、いかがですか。

○中村委員

関係機関との連携の中で、スタンプツアーが楽しみの親子もいる。あるものを利用し、連携してみることもよいのではないか。内容的にすみ分けして、各館が協力出来れば良いと思います。

○小松会長

それでは、議事のその他へ

(3) その他

○下村委員

笹本館長さんになられて、大分変った。これからも館の運営によろしくお願いします。

○笹本館長

今、来年に備え非常に良いものを準備しています。おそらく来年の2月か、1月に話がでると思います。資料収集も行っている。是非ご理解いただきたい。お願いですが、長野県内の家が潰れるのを見ると、お蔵としての歴史館を利用して欲しい。

○下村委員

東御市も文書館を北御牧庁舎に設けました。まだ、いま整理をはじめたところです。是非ご利用ください。

○笹本館長

安曇野市が今年オープンしました。今、長野県内では村単位でも文書館ができはじめています。そういう中で、県がどうするのかという問題もあります。そういったところでもいろいろと声を上げていきたいと思っています。

○小松会長

そろそろ全体でいかがですか。

○久留島委員

私が昔、村の郷蔵で調査し撮影した史料もデジタル化していませんでした。千葉県では史料のデジタル化を少しずつやろうとしています。ことらはこれから震災が起きるだろうと思い、消失すれば悔やまれるので進めはじめたものです。今、地域社会のむかしが壊れている。郷蔵も消えつつある。その点、長野県は先進県だと思います。信濃史学会があり、信濃史料が編纂されている。だからこそデジタル化は必要なことです。それを行う時期に来ているのではないのでしょうか。

○笹本館長

昨日、私どもの館で行った長野県史料保存活用連絡協議会で、「防災から減災へ」をテーマに講習会を実施しました。昨年、千曲市の松田館が全焼したことを受けて、長野県としては文化財災害にいかに対応すべきか。地域ごとにランキングして、考えること。ついては、まだ長野県でもすべてをチェックしていない。信濃史料編纂の折の史料が今どうなっているのか。わからない。あの時の信濃史料が、いまどこにあるのか。委員会にお願いして確認すること。少しでも将来の長野県のために努力して行きたいと思っています。

○小松会長

その他、いかがですか。

○井上課長

今日の感想になってしまいますが、お出かけ歴史館とか常設展とか幅広い分野で具体的な提言をありがとうございました。それらについては、歴史館と考えて行きたいと思います。

もうひとつは、力不足で申し訳ありませんが、人とお金が足りないというお話が何度かありました。それについては、いま新年度予算が始まっているところですが、いかに必要性があるか。そういうところをちゃんと伝え、わかってもらえないと予算がつかないというところはどうしてもあります。そういった面でもまたご協力いただければと思います。

もうひとつ、先程、公文書の管理というお話をしましたが、条例化に向けた検討を進めているところですので、それを付け加えさせていただきます。

○小松会長

やはり、子孫に引き継ぐためにも、次の世代を育成するためにも、そのいちばんの中核、全県の核になるのはどうしても歴史館であると思います。人もお金も付け、更に充実させて欲しいところです。そのほか、事務局の方から何かありますか。よろしいですか。それでは、特に内容ですのでここで、終了させて頂きたいと思います。本日は、ご協力ありがとうございました。

○閉会（事務局）

どうも長い時間、ご審議いただきましてありがとうございました。この後、時間が許す限り、企画展「最古の信州ブランド黒曜石」をご覧いただきたいと思います。

以上をもちまして協議会を閉会いたします。